

エピソード記憶

令和4年6月9日(木)

校長 南波 聡

私は記憶が苦手です。漢字の書き順、数学の公式、英単語、住所、電話番号、車のナンバー等々。特に人の顔と名前は最も苦手で、「私のこと覚えていますか」と言われると困ってしまいます。教員という職業では大きな弱点とも言えます。これらの暗記は『意味記憶』と呼ばれる努力して覚える分野です。

一方、『エピソード記憶』、いわゆる体験を通して覚えるのは得意です。例えば、誰かと食事をした場面、海外旅行やスポーツ観戦の場面等です。ところが、私が得意とする『エピソード記憶』は時として相手に不快感を与えてしまいます。「〇〇さんは遠足のバスで嘔吐した」、「〇〇さんはマラソン大会で周回をごまかして叱られた」等々本人が思い出したくないことを覚えているからです。旧友との歓談で思わず口に出して「いらんこと忘れろ」と叱られることも度々です。皆さんも十分に気をつけてください。

さて、今回の高総体でもたくさんのエピソードがあり、私の記憶の引き出しに大切にしまい込みました。後々、誰に話しても叱られることのない素敵なエピソードばかりです。選手、系の生徒、応援生徒、保護者の皆様、先生方、事務室の皆様等々、すべての皆様に心から感謝申し上げます。

最近、私をよく知る人に『意味記憶』は苦手という話をしたところ、「南波は怠け」と一蹴されました。ほぼ認めます。

心が一つになった行進でした

